遺愛の大先輩たちに圧倒されました!!

講演と音楽のつどい

1月21日（日）午後2時から函館市民会館小ホールで、函館の文学と音楽の会（細谷悦子会長：白須先生のお母様）主催の『講演と音楽のつどい』に出席してきました。

講演者は遺愛卒業生（K4回生）の船矢美幸さん（90歳）で、『人生100年時代知恵ある生き方で幸福を創ろう』という演題で、島崎藤村の妻だった「秦（はた）ふゆ」（函館出身）の生涯を紹介していました。

講演の前に、音楽科の白須先生（ソプラノ歌手：佐藤朋子）が島崎藤村作詞の『初恋』を2曲歌ってくれました。（ピアノ：類家　唯氏）2曲というのは、詞は同じですが、長谷川千秋氏作曲の『初恋』と藤原道山氏作曲の『初恋』を、白須先生のソプラノで聴き比べるという趣向でした。白須先生は両曲とも、とても美しく歌い上げていました。

講演では、藤村学会では長らく低評価（無知で、派手で、成金商人の娘という評価）されていた「秦ふゆ」の生涯を、ノンフィクション作家の森本貞子氏が丹念に調べて書き上げた『冬の家』に基づいて、その真実を紹介して下さいました。実は「秦ふゆ」さんは、藤村との間に7人の子どもを産み育て、藤村が文学のために 家庭を顧みず放浪していたので、函館の実家から支援を受けつつ、没落しつつあった島崎家そのものを支えていたのでした。年上の3人の子どもを貧しさ故の「緩慢なる餓死」で失い、自らも33歳でその生涯を閉じた「ふゆ」でした。

講演の後半では、この会のために全国から集まった遺愛の同窓生（90歳前後）・仲間を紹介し、「知恵ある生き方」を語っていただきました。高齢の女性の皆さんが元気に「老いても楽しい人生」をイキイキと語る姿がとても素晴らしかったです。「男ならこうはいかないだろう。齢を重ねるたびに、どんどん萎んでいくのではないか？！」と感じました。女性、特に遺愛の大先輩のイキイキした姿に、圧倒されると共に感動をおぼえました。

最後は藤村作詞の『椰子の実』を白須先生リードのもと来場者約130人全員で歌い、終了しました。

2024年1月23日